

さわやか

令和3年9月21日発行

校長 漢野 有美子

学力調査結果等のお知らせ



5月26日（水）に石川県基礎学力調査（社会・理科・英語）、5月27日（木）に全国学力・学習状況調査（国語・数学）が、3年生を対象にそれぞれ実施されました。また、かほく市では1，2年生を対象とした学力調査が行われました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校では、この結果を踏まえ、学習の定着や学習状況の把握に努め、学校全体での取組や指導の改善を図っていきます。ご家庭でも、結果をもとに家庭での学習や生活の改善に活かしていただきたいと思います。なお、各学力調査により測定できるのは学力の特定の部分であり、また学校における教育活動の一側面であることをご理解くださいますようお願いいたします。

1. 学力調査の結果（教科に関する調査）

※全国学力・学習状況調査〔3年：国語・数学〕、石川県基礎学力調査〔3年：社会・理科・英語〕

※1・2年生は、かほく市実施の学力調査

下記の表の中の印（◎□△）は本校の平均正答率を、国や県の平均正答率と比較したものです。

◎：2ポイント以上高い △：2ポイント以上低い □：同程度である

	国語	数学	社会	理科	英語
1年	◎	◎	◎	◎	
2年	◎	◎	◎	□	□
3年	□	◎	◎	□	□

学力調査の結果〔1，2年生は国、3年生は県の平均と比べての状況〕

【学力調査の結果から見た本校生徒の学習状況】

全学年、全教科において無解答率が低かったです。1年生は、国と比べ概ね良好でした。2年生は、国と比べると国語、社会、数学がやや高く、理科と英語が同程度でした。3年生は、県と比較すると、同程度でした。

各教科を詳細に分析すると、正答率の高い設問がある一方で、学習の定着が不十分な内容・領域が見られます。特に、知識を使って活用する力には、依然として課題が見られています。

2. 学力調査の結果（生徒質問紙）

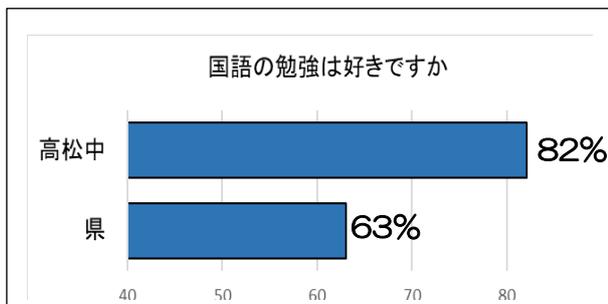
3年生を対象に実施された、生徒質問紙の状況についてお知らせします。

本年度から新しい学習指導要領が完全実施となりました。今回の改訂ではよりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しています。その中で、「主体的・対話的で深い学び」が、キーワードの一つになっています。

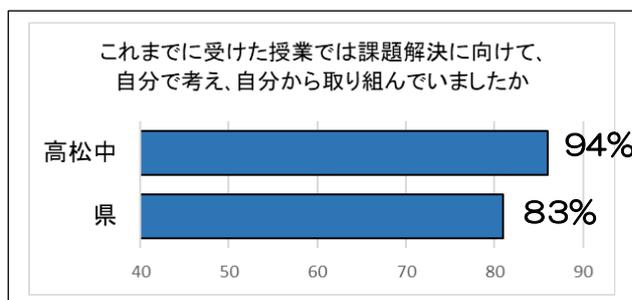
(1) わかる授業【主体的な学び】

学習への取組状況については、国語科をはじめ教科全てで「好き」「どちらかといえば、好き」と肯定的な回答が県を上回っています。教科の勉強における興味・関心が高いことがわかります。また、「これまでに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」においても、肯定的な回答が県を上回っており、生徒は意欲的に学習に取り組んでいると言えます。

今後も、教材・教具・ICT（デジタル教材、動画、パソコン・タブレット等）を活用し、「授業がわかる」「教科の勉強が好き・楽しい」授業づくりに努めていきたいと思えます。



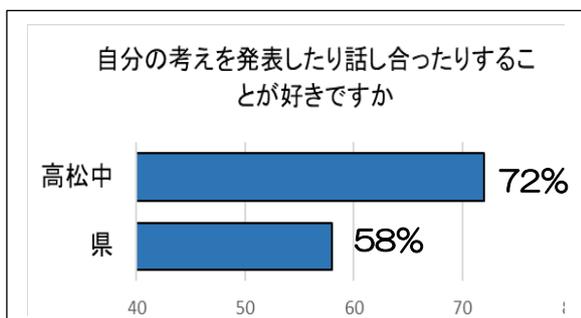
令和3年度全国調査：質問紙（3年）



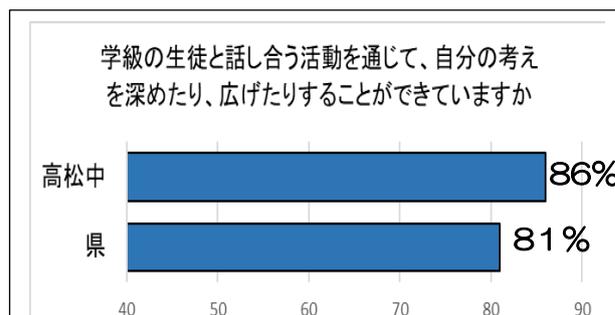
令和3年度全国調査：質問紙（3年）

(2) 話し合い活動の充実【対話的な学び】【深い学び】

学習場面において、意見を発表し、話し合いをする経験がある生徒の正答率は高い傾向にあるようです。積極的に発表したり、話し合ったりする活動を通して自分の考えが深まり、学習の定着につながっていると考えられています。



令和3年度県調査：質問紙（3年）

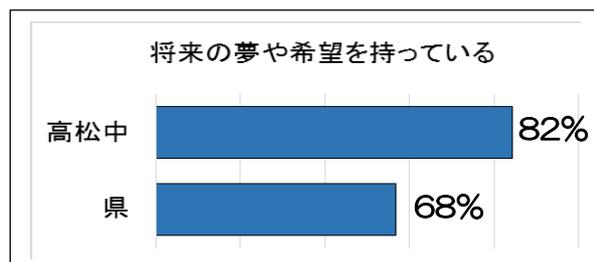


令和3年度全国調査：質問紙（3年）

「自分の考えを発表したり話し合ったりすることが好き」、「話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている」に肯定的な回答をした生徒は、県平均を上回っていることがわかりました。授業において、生徒が活動する場面が多く設定されており、授業満足度が高いことがうかがえます。今後は、授業の中で自分の考えを学級の仲間に話すことや仲間の考えを聴くことで、思考を深めたり広げたりする授業を進めていきます。

(3) 自分自身のこと（自己有用感など）

粘り強く努力を続け達成した喜びを味わうことは、自分への自信になるとともにものごとに取り組む力となり、学習場面においてもじっくりと課題に取り組む姿勢に通じています。



令和3年度全国調査：質問紙（3年）

「将来の夢や希望を持っている」に肯定的な回答をした生徒は県平均を14%上回っています。今後も、普段の生活や授業においても、良いところを見つけて、生徒自身が自分のよさに気付けるような声かけ、最後まで粘り強く取り組めるような支援、思いやりの心を育む場面を設けて取り組みたいと思えます。